

See it through to the end.

藤沢南ロータリークラブ

新井智代

本日 2026 年 2 月 23 日はロータリー創立記念日です。1905 年ポール・ハリスがロータリーを創設してから 121 年が経ちました。今週 500 回の例会を迎えてクラブを終結されるアーカス湘南ロータリークラブ様への感謝をこめて、この記念すべき日に原稿を執筆しています。

私は 2024 - 25 年度に第 3 グループのガバナー補佐を務めさせていただき、アーカス湘南ロータリークラブ様の存在と真剣に向き合う機会をいただきました。当時、第 3 グループには多種多様な 10 クラブが存在し、その 1 クラブとしてアーカス湘南ロータリークラブ様は、個性的な存在価値を放っておられました。数字の上では 3 名のクラブ、ただ寄付額は 2780 地区の中でもとびぬけた成果をもたらしていらっしゃる。創立 10 周年をお迎えになった年でもありました。3 度目の会長を務めていらした原いづみ会長はその年を“クラブの存続意義を見つめ直す段階にある”と表現されていました。

ガバナー補佐は「会長・幹事会」を月 1 回行い、ガバナーの意向や地区の委員会の様々な情報を 10 クラブの会長幹事にお伝えしていく役割を担っていました。年度始め 7 月の会長・幹事会だったでしょうか。今まで第 3 グループではグループで合同の事業（ピースウォークやカンボジアへの運動靴の寄贈等）を行ってきた慣例がありました。そこで当年度も 10 クラブ合同の事業を何かやりたいと思っていますが、何がいいでしょうか？と皆様にご意見を求めた時です。

原会長がすっと手を挙げて「グループで合同事業は必要でしょうか？」とおっしゃったのです。ギクリといたしました。その場の空気も一瞬緊張に包まれました。「ロータリーはクラブごとに奉仕活動を行っています。第 3 グループではポリオの募金を既に合同で行っています。これ以上に合同事業はなぜ必要なのでしょう？」と。

ドキドキしました。なぜなら私はお恥ずかしながら深く考えたことがなかったからです。単純に今までやってきていた……から、先輩 AG から今年も何かやりなさいよ、と言われた……から、引き続き行おうとしていただけで、そのことの価値や意味を即答できるほどの信念を持ち合わせていなかったからです。おそらく真っ赤な顔でしどろもどろ「引き続きご相談させて欲しい」というようなお答えしかできなかつたと記憶しています。

原会長の問いは「真実かどうか」を射抜く正論でした。

おそらく E クラブを創設するところから始まり、第 3 グループへの移籍などこの 10 年間に多々の経験乗り越えながら、ロータリーの在り方をいつも自問して勉強していらした所以のご質問だったのでしょう。

反省しました。もっと勉強しなければならぬ。各クラブにとって合同事業を行う負担がどれくらいなものかも含めて、やる意味はあるだろうか、もっと考えなければならぬと思いました。

そんな過程を経て、各クラブから「10クラブ合同事業実行委員」を選任いただき、その委員さん達と何をやるか、どうしてやる必要がるか…熱心に何回も討議しました。協議を重ねた結果として「子供食堂支援～おいも de サンタ～」の企画がやっと生まれました。アーカス湘南ロータリークラブ様、原会長からのひとつの疑問の提起が、考える必要を生み、私をはじめ何人かのロータリアンはインスパイアされ各々の成長に繋げることができたのだと思っています。

やっと迎えた、寄付の食材「お芋」堀りの当日、原会長の姿がお芋の畑にあったときの嬉しさは何とも言葉にできません。一度疑問を投げたものの…やるとなったら、ちゃんと現場に来てくださっていたのです。(当時、原会長は足の状態が悪く手術を重ねて杖をついていらっしゃいました。)
「お芋は掘れないから見ているだけ」と笑って言いながら、参加した子供やボランティアの皆さんにカレーをふるまっていた姿は忘れられません。ロータリアンだなぁと思いました。

その上、アーカス湘南ロータリークラブ様として 250 キロものお米をプロジェクトに寄贈してくださいました。そのお米は第3グループで援助した 15 か所の子供食堂、延べ 700 人以上の子供たちへの援助に繋がりました。

「出来ることと出来ないことと言えば、出来ないことの方が多いでしょう。しかしながらこのような状況下でも‘出来ないと言わずに出来る方法を考える‘をモットーに取り組んでいきたいと思えます。」と記されていた通り、アーカス湘南ロータリークラブ様として出来ることを最大限に発揮していただいたことを心より感謝申し上げます。

実はクラブを終結しようと思う、というお話はそのころから伺っていました。聞いている私共の方は何だか不安だけでしたが、経緯がどうであれ、始めたことを終わらせると決断するには継続するよりもよほど大きな「勇気」が必要でいらしたことでしょう。

2015年、Eクラブとして発足された皆様が2018年に第3グループへ移り「ARCUS(アーカス)」=懸け橋という名前をもたれた頃は15名の会員がいらしたと伺っています。規約の変化など含めましてEクラブの存在意義が少しずつ変わってきた中、それでも国際ロータリー第2780地区の中でアーカス湘南ロータリークラブ様が10年に渡り革新的クラブであり続けたことは間違いがありません。革新的クラブの本質は「変化し続ける」ことにあるとすれば、変化の形のひとつとして「終結する」ことも受け入れざるを得ないのかも知れません。

始まりがあれば終わりがある……「有終の美」という日本語もありますが、この度の終結はそれほど綺麗ごとでは済まされないように感じます。最後にどんな言葉をお送りすれば良いのか考えた結果、タスクやプロジェクトを完成させるために決意と忍耐で進めること「See it through to the end」というフレーズが自然と浮かびました。最後までやり遂げることの「毅然さ」や「忍耐」が必要であるという意味合いをもった言葉です。

ひとことでは表せない気持ちを抱えてクラブの終結と向かい合う、アーカス湘南ロータリークラブ様の姿が私共に教えてくださったことは大変大きなものがあったと感じています。だからこそ、クラブとしては終結するものの、クラブの会員のお一人おひとりが次なる変化をとげて新しい革新・成長へ向かってくださることをお祈り申し上げます次第です。

改めまして最後にアーカス湘南ロータリークラブ様の長年に渉るご奉仕に、心より敬意を表し感謝を申し上げます。本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。